

2024年度 福祉学部
一般選抜 A 日程問題

国 語

2024年2月実施

出題科目	ページ	解答番号
国語 (100点)	4～19	1～28

注 意 事 項

- 1 選抜開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見ないこと。
- 2 問題は4～19ページである。
- 3 選抜中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 4 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、監督者の指示に従って、それぞれ正しく記入し、マークしなさい。
 - ① 選抜番号欄
必ず選抜番号（数字）を記入し、さらにその下のマーク欄にマークしなさい。
 - ② 氏名欄
氏名及びフリガナを記入しなさい。
- 5 必要事項欄及びマーク欄に正しく記入・マークされていない場合は、採点できないことがあるので注意すること。
- 6 解答は、解答用紙の解答欄にマークしなさい。例えば、**31** と表示のある問いに対して⑤と解答する場合は、次の(例)のように解答番号31の解答欄の **(5)** にマークしなさい。

(例)

解答番号	解 答 欄
31	(1) (2) (3) (4) 5 (6) (7) (8) (9) (10)

- 7 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離さないこと。

国

語

(
解答
番号

1

～

28

)

I 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

当然のことですが、「歴史的出来事」は「歴史記述」に時間的に先行します。ある出来事が生じたからこそ、われわれはそれを後から記述することができるわけです。その意味で、歴史記述は常に「事後的」ないしは「回顧的」という性格を免れることはできません。これを歴史的出来事の歴史記述に対する存在論的先行性と呼んでおきましょう。ここまでは誰でもナツトクのいくことです。しかし、歴史的出来事と歴史記述との関係は、そう簡単なものではなく、ときにパラドキシカルな様相を呈します。と言いますのも、「事後的」ということは、記述の対象である出来事がすでに現実には「存在しない」ということを意味しているからです。ですから、歴史記述は目の前で起こっている知覚可能な出来事をリアルタイムで「記述」したり「描写」したりすることは、その性格を根本的に異にしています。他方で「事後的」という制約がありますので、歴史記述は想像をほしきままにして対象や出来事を描写できるフィクションとはやはり性格を異にしています。つまり、ノンフィクション（知覚描写）ともフィクション（文学的虚構）とも異なる第三のジャンルを形作つているところに、歴史記述の特異性があり、それが「探究」の手続きを必要とする理由でもあるのです。

そのことをもう少し詳しく見るために、**B** 画家がアトリエで肖像画を描いている場面を思い浮かべてみましょう。もちろん肖像画ですから、描かれた絵はできるだけ本人と似ていることが要求されます。もし本人がモデルとして目の前に坐すわっていれば、画家はその対象を①チュウジツに描写することを心がけるでしょう。また、われわれは完成した絵を本人と見比べて、その良し悪しを「**a**」に判定することができます。他方、光源氏やシャロック・ホームズなど虚構の人物の肖像画ならば、小説の挿絵さしえを描くときにように、画家はかなり自由に想像力を羽ばたかせることができますし、本人と似ているかどうかはほとんど問題にはなりません。つまり、フィクションの場合は、事実の正確な描写よりは、**b** 効果が優先されるわけです。

それに対して、画家が死んだ父親の肖像画を描くような場合はどうでしょうか。おそらく画家は、自分の記憶の中にある生前の父親の姿を思い浮かべ、残された写真などを手がかりにし、さらには家族の証言などをもとにしながら、できるだけ本物に近づくように肖像画を描き進めていくことでしょう。写真映りが良い人も悪い人もいるでしょうし、また若い頃の写真しか残されていない場合もありますので、写真といえども**c** 証拠とはなりえません。また、自分の記憶と家族の印象とが②ビミョウに食い違ったり、ときには矛盾することもあるでしょう。ですから画家は、こうした証拠や証言を突き合わせ、それらを**d** に判断しながら絵筆を動かしていく必要があります。この一筋縄ではいかないプロセスこそが、まさに歴史的事実を確定する「探究」の営みにほかなりません。

以上のことから、「探究」としての歴史記述が、いわば「モデルのいない肖像画」を描くことに類比的であることがおわかりになると思います。その意味で、歴史記述は証拠や証言をもとにして歴史的出来事を「復元」する作業にほかなりません。しかし、この「復元」は、時計を分解して復元するような作業とは類を異にしています。そもそも原物がもはや存在しないのですから、歴史記述は「オリジナルなき復元」という奇妙な性格をもつことになり

ます。だからと言って歴史記述は、焼失した城郭のレプリカを[㊦]ケンゾウするような「復元」作業とも類を異にしています。レプリカはオリジナルとは別物であり、その「模造品」にすぎません。ところが、歴史記述を通じてわれわれが知るのは、当然ながら歴史の出来事のレプリカではなく、あくまでも歴史の出来事そのもの、すなわちオリジナルにはかならないのです。

このように、歴史の出来事と歴史記述の間には、パラドキシカルな循環関係が存在します。確かに、歴史の出来事は歴史記述に存在論的に先行します。歴史の出来事が存在しなければ、歴史記述はその動機も手がかりも失ってしまうからです。しかし他方で、歴史の出来事の存在は、「探究」の手続き、すなわち歴史記述を離れては確認することができません。その意味で、歴史の出来事は歴史記述を通じてのみ知ることができます。探究のすべをもたず、いかなる記述もなしえない歴史の出来事というものに、われわれは「存在」の資格を与えることはできません。それはフィクションと変わるところがないからです。この観点からすれば、歴史記述は歴史の出来事に認識論的に先行します。この認識論的先行性と先の存在論的先行性との間にある循環構造こそ、歴史認識を根底において特徴づけているものなのです。

歴史の出来事の存在論的先行性を端的に示しているのは、過去に起こった事柄の「痕跡」にほかなりません。具体的には、遺跡、遺物、文書、証言など歴史学で「史料」と呼ばれているものがそれに当たります。もちろん、これらの史料は過去の出来事の「痕跡」であって、歴史の出来事そのものではありません。「痕跡」をいくら寄せ集めても、それらはいわばジグソーパズルの一つのピースにすぎず、そこから歴史の出来事の全体像を知ることができません。それゆえ、存在論的先行性が優位を保ちうるのはこの地点までです。

過去の「痕跡」はあくまでも歴史の出来事の存在を保証する「証拠」であり、したがってそれらは実証的な史料批判に堪えるものでなければなりません。もし証拠が虚偽であることが明らかになれば、それに支えられている歴史の出来事の存在も否定されざるをえないでしょう。かつてはその実在が信じられていた神武天皇が、歴史の探究の結果、現在では[㊧]カクウの人物と見なされていることはご承知の通りです。また、虚構の物語と考えられていたトロイア戦争が、シュリーマンが発掘した遺跡や遺品などの「証拠」によってその実在性が確かめられたこともよく知られています。このような見地からは、認識論的先行性が優位に立ち、「存在」は「認識」に従属します。

これまで述べてきた歴史的事実の存在論的先行性と歴史記述の認識論的先行性との間の錯綜した関係は、^D「解釈学的循環」の構造をもつものとして特徴づけることができます。解釈学的循環とは、テキスト理解の基本原則をなすものであり、「全体と部分の循環関係」を指しています。テキストを理解する際には、その部分を構成する個々の語や文を順次読み進めていき、次に節や章の意味を把握し、最後にテキスト全体の理解に到達するわけですから、その限りでは部分は全体に先行します。しかし、個々の語や文の理解は文脈に依存します。フレーゲが「語は完全な文においてのみ本来意味をもつ」[㊨]「算術の基礎」[㊩]と述べている通りです。個々の語の理解は文に、文の理解は節に、節の理解は章に、そして章の理解はテキスト全体に依存しています。つまり、部分の意味理解はそれを取り巻く全体的文脈に関する「意味の先取り」を必要とするわけです。この観点からは、全体は部分に先行すると言えます。

つまり「全体は部分から理解され、部分は全体において理解される」というのが解釈学的循環の構造にほかなりません。

歴史の出来事と歴史記述との関係についても、同じような循環構造を指摘することができます。われわれは歴史の出来事の全体像について何らかの先行的理解をもっていなければ、歴史記述を始めることができません。その理解がなければ、そもそも「何」について記述したらよいかさえわからないからです。これは、ジグソーパズルにおいて、たえず全体像を念頭に置かなければ、個々のピースを埋めることができないことと似ています。しかし、その全体像は、ジグソーパズルとは違って、歴史記述を通じて一步一步明らかになるべきものであり、最初に知られているものではありません。したがって、歴史の出来事は歴史記述の「出発点」であると同時に「到達点」でもあるという二重性をもっています。いわば、「出来事としての歴史」と「記述としての歴史」は、蛇が自分の尾を噛んでいるウロボロスのような形だからみあっているのだと言えます。

(野家啓一のえけいいち『歴史を哲学する』)

(注) ウロボロス……古代における象徴的イメージのひとつ。自分の尾を噛んで輪になっている蛇または竜を図案化したもの。

問一 傍線部⑦、⑧の漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群の中からそれぞれ一つずつ選び、その番号をマークしなさい。解答番号は⑦―**1**、

①―**2**、⑨―**3**、⑩―**4**、⑪―**5**。

⑦ ナツトク

1

- ① トクメイで投稿する。
- ② そのやり方はトクサクではない。
- ③ トクジツな人柄。
- ④ きわめてトクシユな事例。
- ⑤ トクソク状を受け取る。

⑩ チユウジツ

2

- ① チユウコクには従った方がいい。
- ② 一事に全力をケイチユウする。
- ③ 実力ハクチユウ。
- ④ 貨幣をチユウゾウする。
- ⑤ 軍隊のチユウトン地。

⑧ ビミヨウ

3

- ① 最近作の中ではハクビの出来。
- ② 竜頭ダビに終わる。
- ③ シンビ眼にすぐれた批評家。
- ④ ビに入り細をうがつ。
- ⑤ ジョウビ薬を補充しておく。

⑪ ケンゾウ

4

- ① 日頃からケンコウに留意する。
- ② ホウケンの態度は改めてほしい。
- ③ ケンポウ改正について議論する。
- ④ 首都ケンにある観光名所。
- ⑤ ケンポウ術数。

④ カクウ

5

- ① 病人をタンカで運ぶ。
- ② 数のタカにはこだわらない。
- ③ 責任をテンカしてはいけない。
- ④ カツカ搔痒そうようの思い。
- ⑤ 保養地でヨカを過ごす。

問二 空欄 a } d に入れるのに最も適当な言葉を、次の中から一つずつ選び、その番号をマークしなさい。解答番号は a | 6、

b | 7、c | 8、d | 9。

- ① 総合的 ② 客観的 ③ 決定的 ④ 芸術的

問三 傍線部 A 「歴史的出来事の歴史記述に対する存在論的先行性」とあるが、ここで筆者はどのようなことを言っているのか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。解答番号は 10。

① 歴史的出来事は空想の産物にすぎない場合もあるが事実である場合もあるため、歴史記述はフィクションでもノンフィクションでもなく、その両者を融合させた第三のジャンルとして形成されるものということ。

② 歴史的出来事とは現在よりも前の時点で生じた出来事であり、歴史記述とは、そうした出来事を経験した者が、後になってから過去を振り返りつつ、その出来事ができるだけ詳細に記述したものだということ。

③ 歴史的出来事は、現在の歴史記述に先行して生じた過去の出来事であり、歴史記述とは、そうした時間的な前後関係を意識しつつ、過去の出来事をあたかも現在の出来事であるかのように記述する作業だということ。

④ 歴史的出来事とは、歴史を記述しようとしてしている者にとつてすでに知覚できなくなっている出来事であり、歴史記述とは、そうした出来事について探究し、それがどういふ出来事だったかを確定する行為だということ。

⑤ 歴史的出来事はそれが本場に存在したという確実な痕跡をもたないものだが、歴史記述は、そうした不確定性に拘泥することなく、歴史的出来事が実在していたはずだとする信念のもとに作られるものだということ。

問四 傍線部B「画家がアトリエで肖像画を描いている場面を思い浮かべてみましょう」とあるが、このように言う筆者の見解を説明したものと最も適当なものを、次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。解答番号は **11**。

- ① 歴史記述とは実在しなかった人物の肖像画を描くような行為であるため、そこで重要になるのは記述する者の技量や想像力であり、記述者には、自在に想像力を羽ばたかせながら過去を目の前に再現するかのよう作業が求められる。
- ② 歴史記述とはできるだけ本人に似た肖像画を描こうとするような作業だが、本人が目前にいる肖像画の場合と違って、過去の出来事はもはや知覚できないため、結局はフィクションに近いようなかたちで歴史が記されることになりがちである。
- ③ 歴史記述とは他界した人間の肖像画を描くような作業であり、ここでは復元されるべき対象は存在していないが、その対象についてのさまざまな証拠などを手がかりにしなが、その対象がかってどのように存在していたかが探究され、復元が行われる。
- ④ 歴史記述とは亡き父親の肖像画を描くような行為だが、そこで描かれようとしている歴史的出来事はすでに過去のものとなっているため、記述者は自身の記憶に頼って描くべきことを確定していくしかなく、その作業は容易なものではない。
- ⑤ 歴史記述とは肖像画を描くような作業だが、肖像画で描かれる対象が現存の人物であったり虚構の人物であったり亡き人物であったりするように、歴史的出来事もきわめて多様なものであるため、そこでの記述は一筋縄ではいかないものとなる。

問五 傍線部C「探究のすべをもたず、いかなる記述もなしえない歴史的出来事というもの」とあるが、それはどういうものだと考えられるか。最も適当なものを、次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。解答番号は **12**。

- ① 想像をほしのままにして描かれた歴史記述。
- ② 歴史記述から切り離されて存在している過去の出来事。
- ③ 歴史記述によって復元された、レプリカとしての歴史的出来事。
- ④ ジグソーパズルのピースにすぎないような、過去の出来事の痕跡。
- ⑤ 歴史的出来事の全体像を念頭に置かなければ認識できないような個々の出来事。

問六 傍線部D『『解釈学的循環』の構造をもつ』とあるが、それはたとえばどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、

その番号をマークしなさい。解答番号は **13**。

- ① 文章を構成している個々の語や文を順次読み進めていき、さらに節や章の意味を把握していくことではじめて、文章全体の意味を理解することができるということ。
- ② 文章中の各部分の意味を理解するにはそれを取り巻く全体的文脈の意味を先取りしている必要があるため、文章全体の理解がなければ語句の意味などわからないということ。
- ③ 語が完全な文においてのみ本来の意味をもつことからわかるとおり、不完全な文をいくら書いても、その意味がますますわからなくなるような悪循環に陥ってしまうということ。
- ④ テキスト理解の基本原理は全体と部分の循環関係であるため、そうした原理に配慮することなく書かれた文章は、読み手にとって理解しにくいものになるということ。
- ⑤ 一つ一つの語や文の意味がわかるからこそ文章全体が理解できるが、そうした理解がなされることで、文章中における語や文の意味もあらためて理解されるということ。

問七 筆者の見解に合致するものとして最も適当なものを、次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。解答番号は **14**。

- ① 歴史記述は過去の出来事の復元ではあるがレプリカではなく、復元されたものが実際に起きた出来事以上にリアルに描かれているという意味で、それはオリジナルと呼ばれるべきである。
- ② 過去の歴史的出来事は客観的な事実であるが、それをもとに組み立てられた歴史記述は恣意的なものであり、その意味で両者の関係はパラドキシカルな様相を呈している。
- ③ 歴史記述はオリジナルなき復元というべき性格をもっており、そこにはいかなる手がかりもない状態から歴史的出来事を復元させるといふ困難な作業がつきまとう。
- ④ 歴史的出来事が存在するからこそ歴史の認識は行われるが、その認識によって、かつて存在するとされていた歴史的出来事の存在が否定されることもありうる。
- ⑤ 過去の出来事の痕跡が史料として集められている段階では、認識論的先行性が優位に立っており、そこではまだ存在が認識に従属しているといえる。

II 次の文章は、ある小説家が二〇〇一年に発表したものである。これを読んで、後の問いに答えなさい。

「こころ」という言葉の来歴をふり返るとき、この「こころ」には大和ことばの「こころ」と漢語の「心」という二つの太い流れがあったことに気づく。その二つの太い流れが交錯するところに「こころ」と「心」をめぐる複雑な発達史が潜んでいるように思う。

まず「こころ」という大和ことばには、『古事記』以来というか『万葉集』以来の千年の歴史があるということからはじめないわけにはいかない。『源氏物語』『平家物語』をはじめ能や浄瑠璃などの語りの世界を見渡せばただちにそのことがわかる。

その使用範囲は **a** 羅万象におよび、日常生活における喜怒哀 **b** 楽のすべてをカヴァーしている。人事や社交の領域に鋭敏な感覚を行きわたらせていることに気づく。

この和語系の「こころ」の分布は、大和ことばのほとんどの領域を覆っている。そのすべての品詞のなかにとりこまれ、巧みに転用され、場合によってはそれとはわからないような形で潜入している。まるで忍びの者のように身を隠して、息をひそめている。

こころ(が)騒ぐ	こころ(が)苦しい	こころづく	こころはずむ	こころ躍る
こころ映え	こころ待ち	こころ狂い	こころ残り	こころ変り
徒し ^{あだ} こころ	夢見 ^{あだ} こころ	ものこころ	逸るこころ	
こころならずも	こころ静かに	こころ及ばず	こころから	こころゆくまで

挙げていけばきりもない。そのコトバの群は、ほとんど数珠つなぎになって、われわれの生活のあらゆる場面に登場してくる。マナーやモラルの万般に忍びこんで、活発に動き回っている。いつてみれば和語の「こころ」はさきにもいったようにわれわれの意識にあらわれる喜怒哀 **b** 楽のすべてを覆いつくしている。だから煩惱系と呼んでもいい。

それについて「心」の方は、これはいうまでもなく中国文明との接触によって生みだされた言葉だった。この漢字表現には、それまでの「こころ」とは別の価値観が植えこまれていたことに注目しなければならない。

それは主として中国への留学生(僧)によってもたらされたものだった。たとえば最澄^{さいじやう}のいう「道心」、空海^{くうかい}の「十住心」、道元^{どうげん}の「身心脱落」(禅の身心論)、そして日蓮^{にちれん}の「観心本尊」などの言葉遣いをみればわかるだろう。

それがやがて世阿弥^{せあみ}の「初心」を生み、のちに無心、道徳心、愛国心、公共心などの慣用語を世に送り出すことにつながった。

みてきたように前者の和語系の「こころ」は、いわば人間的な、あまりにも人間的な煩惱系の意識や表象と結びついて使われてきた。それにたいして後者の漢語系の「心」は、その煩惱系の衝動を緩和したりコントロールしたりする役目を担わされるようになったといっている。

見方を変えれば和語の「こころ」は生活感のあふれる感ずる「こころ」、それにたいして漢語の「心」は観念世界を志向する信ずる「心」ということができるかもしれない。そしてまさにこの「こころ」と「心」が交錯し **X** するなかで「ひとり」の存在が鋭く刺激され、しだいに固有の自我意識を拡大することにつながったのではないだろうか。

近代にいたって **B** 夏目漱石は「則天去私」といい、小林秀雄もまた「無私の精神」ということを強調して説くが、これらの「去私」や「無私」は、右の和語系と漢語系が交錯し **X** するなかでつむぎ出された合成語のように、私の目には映る。面白いのは、漱石の「則天」が「超越」を志向し、小林の「無私」が奇しくも「無」に向き合おうとしていることだ。「ひとり」という存在の息遣いがきこえてくるのである。

今から百年前、その漱石が『こころ』という小説を書いて、日本人における生と死のあり方に一石を投じた。だがこの小説を『東京朝日新聞』に連載しているときは『心』というタイトルをつけていたことに、ここではとくに注意してほしい。

漱石はもしかすると、わが千年の歴史のなかに浮き沈みしてきた「こころ」と「心」のあいだを行きつ戻りつしながら、悩みつづけていたのかもしれない。その漱石の苦悩のあいだからすけてみえてくるのが「ひとり」で生きていくことの難しさであり、「ひとり」という存在から浮き上る寂しい孤独の姿である。

漱石が小説『こころ』を創業まもない岩波書店から自費出版したのが大正三年（一九一四）、同じこの年の十一月二十五日に、学習院輔仁会ほじんで「私の個人主義」と題して講演している。

当時、彼は「自己本位」の説を唱えていたが、そこには自我の不安と我執に脅えるエゴイズムの問題が顔をのぞかせていた。英国留学によって、近代日本人の第二の天性となる「個人主義」がようやく誕生のときを迎えようとしていた。

漢語系の「心」とともに和語系の「こころ」の世界を生きる一人の作家が、外からやってきた西欧流の「個人」を手元に引き寄せ、何とかこれを **Y** しようとしている。

裏から眺めれば、それまでの「ひとり」の存在が自我と自己に引き裂かれようとしている姿とも映る。「ひとり」の冬の時代がやってきたといってもいいだろう。「ひとり」から「個人」へと時代の歯車まわが廻りはじめたのである。

漱石の時代が、すでに「ひとり」の哲学を喪失していく危機にさらされていた。 **C** 明治開国期の「個人」や「個人主義」が文明開化の波にのって精神の新しい衣裳となりつつあったということだ。

その「個」や「個人」がふたたび勢いをとりもどすが、第二の開国期ともいうべき、戦後の飢餓時代であり、焼跡時代の活気だった。敗戦で傷つい

た日本人の心に共感と慰藉いしやの種をまいたのが、アメリカから一挙に流入した文化と価値観だった。その米国流デモクラシーのなかでひとときわ輝いていたのが、「個」の自立と「個性」の尊重という掛け声のもとに広まっていくイデオロギーだった。

思い返せば、戦後のわれわれは個、個の自立というコトバをよく口にしてきた。個性、個性の尊重と異

だが、その結果、どういうことになったか。右をみても左をみても自己愛の個がまんえんし、孤独な個の暴走する姿が巷ちまにあふれるようになっていた。

なぜ、そうなったのか。理由はいくらでも挙げられるだろう。だが第一に指摘すべきは、やはり横並び平等主義がわがもの顔に振舞いだすようになったからではないか。

それが戦後七十年以上もつづけばどういうことになるか。家族では親と子がオレ—オマエの対等の関係に還元され、学校においては教師と生徒がトモダチ関係に引きずられるようになった。

会社ではどうなったかといえば、各部署の上司は部下たちにたいしてほとんど調停者の役割を期待されるようになっていた。

ヨコの人間関係だけを意識しつつ、タテの教育軸、垂直の師弟軸を忘失したまま長い時間が過ぎてしまったのである。それに代って水平軸の人間関係神話がいつのまにかできあがっていたということだ。

その神話を後生大事にしているうちに、人間関係そのものがガタガタになっていた。むろん事態はそれにとどまらなかった。横並び平等主義とともに浮上してきたのが、誰もかれもが身近な第三者と自分を比較する癖がついてしまったことだ。

比較をすれば、たちどころに違いが目につく。容貌、性格からはじまって社会的背景、財産のあるなしまで、平等でも公平でもない現実をつきつけられる。

比較地獄のはじまりだった。それが嫉妬地獄を招き寄せ、その自

そもそも横並び平等主義は、いつも身近な閉鎖空間へと **Z** の目を光らせている。それがいつのまにか個の自立、個性の尊重という観念を空洞化させていった。人間関係の網の目をズタズタに引き裂いてしまったのである。

その個とか個性ということだが、考えてみればこれらのコトバが西欧からの輸入語であり翻訳語であったことに気づく。そもそもそれらのコトバは西欧の近代社会がつくりだした新しい理念だった。

それをいち早くとり入れたところに、さきに夏目漱石の場合でみたように、たしかに明治近代の英知の一端をかいまみることができているが、そのあとがけなかった。

なぜならその西洋直輸入の理念を、日本の伝統的な「ひとり」の価値観と照らしあわせ、それこそ真剣に比較してみる作業をほとんど完全に怠ってし

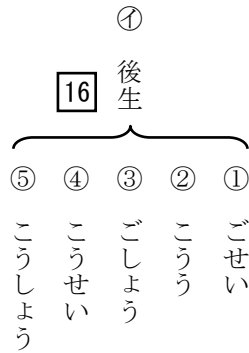
まったからだった。「個」にあたる大和ことばを探しあてようとする仕事である。そのことをまるで考えつかなかったことは、何とも情けない話だったというほかはない。

歴史をすこしでもふり返ってみればただちにわかることだが、わが国では「ひとり」という大和ことばが、まさに「個」にあたる固有の場所にちゃんと鎮座していた。それも『万葉集』の大昔からだった（たとえば柿本人麻呂）。それは、さらに中世の親鸞（『歎異抄』）をへて、近代の福沢諭吉（『学問のすゝめ』）にいたるまで、いわゆる「ひとり」の哲学の系譜として時間的、空間的な広がりをもっていたのである。

（山折哲雄『「ひとり」の哲学』）

問一 傍線部の⑦・⑧の読みとして最も適当なものを、次の各群の中からそれぞれ一つずつ選び、その番号をマークしなさい。解答番号は⑦―**15**、

⑧―**16**。



問二 空欄 **a**、**d**（**b**は二箇所ある）に入れるのに最も適当な漢字を、次の中からそれぞれ一つずつ選び、その番号をマークしなさい。解答番号は **a**―**17**、**b**―**18**、**c**―**19**、**d**―**20**。

- ① 縄
- ② 深
- ③ 森
- ④ 相
- ⑤ 哀
- ⑥ 愛
- ⑦ 匂
- ⑧ 口

問三 空欄 (Xは二箇所ある) に入れるのに最も適当な言葉を、次の中から一つずつ選び、その番号をマークしなさい。解答番号は

X | 、Y | 、Z | 。

- ① 融合 ② 調教 ③ 克己 ④ 葛藤 ⑤ 監視 ⑥ 洞察

問四 傍線部A「その二つの太い流れが交錯する」とあるが、このことについて筆者はどう考えているか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。解答番号は 。

- ① 大和ことばで表現される「こころ」と、漢語で表現されるのにふさわしい「心」とが拮抗し相殺しあうことになり、そのため両者は次第に力を失っていった。
- ② 日常的な生活感情と結びつく「こころ」と、観念的な世界と結びつく「心」とが複雑に絡み合うなかで、日本独特の自我意識のようなものが育まれてきた。
- ③ 和語系の「こころ」と、漢語系の「心」とが交じり合いながら融合し、そうした動きがやがて、近代的な個人主義を発達させる要因となっていた。
- ④ 煩惱系の衝動を礼讃する態度の表象である「こころ」と、その衝動を否定しようとする態度の表象である「心」との対立が、日本人の複雑な心性を生み出した。
- ⑤ 和語で表現される理性的な「こころ」と、漢語で表現される感覚的な「心」とがさまざまに交錯し、そこから生まれた「無^〆」の観念が多くの日本人の心性に定着していった。

問五 傍線部B「夏目漱石」とあるが、筆者は漱石をどのような人物と捉えているか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。解答番号は **25**。

- ① 漱石は、和語系の言葉と漢語系の言葉を合成させて「去私」という言葉を作り出したように、和漢折衷的な新しい概念を作って次々と世に送り出し、近代日本の文化に大きな影響を与えた。
- ② 漱石は、『こころ』という小説で人間的な煩惱のありようを描くだけでなく、『心』という小説ではそうした煩惱をいかにして緩和し制御すべきかを説いており、『こころ』と『心』のあいだを行きつ戻りつしていた。
- ③ 漱石は、『こころ』と『心』との相克から生じた苦悩のなかで個人主義を確立させたが、その後は、そうした個人主義と外国からやってきた「自己本位」という思想とのあいだで、やはり苦悩することになった。
- ④ 漱石は、『こころ』と『心』とのあいだを行きつ戻りつしていたが、そうした自身の状況に悩みつづけるあまり、そこから逃避しようとして「個人主義」という概念にすがりつくことになった。
- ⑤ 漱石は、日本的感性和漢語的な教養とを身につけていただけでなく、近代日本で力をもつことになる西欧的な価値観とも積極的に向き合おうとし、そうしたなかで自身の生き方を模索していた。

問六 傍線部C「明治開国期の『個人』や『個人主義』が文明開化の波にのって精神の新しい衣裳となりつつあった」とあるが、こうしたことについて

筆者はどう考えているか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。解答番号は **26**。

① 明治開国期に導入された個人主義は「こころ」か「心」かといった問題をもたらしたただだったが、戦後における個人主義の台頭は、日本人々に共感と慰藉をもたらしたという点で意義がある。

② 日本は個人主義の導入によって「ひとり」という存在がいったん失われるという不幸に見舞われたが、その個人主義が人間を孤立させたせいで再び「ひとり」に焦点が当たったようになったことは、意外な幸運だといえる。

③ 開国後の日本が西欧近代の新しい理念をいち早く導入したことについては評価できるが、そうした近代化のなかで日本の伝統的な価値観が顧みられなくなってしまったのは、嘆かわしいことである。

④ 西欧近代の新しい価値観は日本人の心を魅了したかに見えたが、一方で日本には「ひとり」の哲学の系譜が根強く存在しており、そのために西欧的な価値観が日本社会に定着しなかったのは残念なことである。

⑤ 西欧から入ってきた個人主義の最も評価すべき点は、「こころ」と「心」をバランスよく融合させている点にあるが、多くの日本人がそうした個人主義の身上に気づいていないことは、大きな問題だといえる。

問七 傍線部D「横並び平等主義がわがもの顔に振舞いだすようになった」とあるが、これによって生じたことを説明したものと誤っているものを、

次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。解答番号は **27**。

① 人間関係のあり方が変容し、多くの個人が自己愛にとらわれた孤独な存在になってしまった。

② 平等主義が唱えられるなかで、かえって人々が不平等に直面させられるという事態も多く見られるようになった。

③ 立場や年齢の異なる者同士も対等なヨコの関係であるべきだという考え方を、自明視する傾向が生じてきた。

④ 平等主義と結びついていたはずの個の自立や個性の尊重といった観念が、次第に形骸化していった。

⑤ タテの人間関係が失われ、年長者や上司が、若者とは対照的に自己愛を抱けなくなってしまう。

問八 筆者の意見に合致するものとして最も適当なものを、次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。解答番号は 28。

① 「こころ」と「心」はかつてはほとんど区別されることなく使われていたが、近代になると多くの人々がその違いをことさらに意識するようになった。

② 和語の「こころ」は日本古来の「ひとり」と密接につながる概念だが、漢語の「心」は「ひとり」とは無縁であり、むしろ西欧渡来の「個」と重なる概念である。

③ 漢語によって表現される「心」は外国から渡来した概念であり、日本の伝統的な文学や芸能は、この「心」への反発を糧にすることで発展を上げてきた。

④ 「個」ということばは西欧から輸入された理念を表す翻訳語だが、そのことばに相当するような概念がかつての日本に存在していなかったというわけではない。

⑤ 漢語の「心」が表すものは煩惱系の衝動を緩和しコントロールする役割を担わされているが、人が衝動を自身の精神でコントロールすることは不可能である。

2024年度 福祉 一般A 国語 解答

大問	小問	細分	正解	配点	大問	小問	細分	正解	配点
I	問一	1	②	2点	II	問一	15	⑤	2点
		2	①	2点			16	③	2点
		3	④	2点		問二	17	③	2点
		4	②	2点			18	⑤	2点
		5	①	2点			19	⑧	2点
	6	②	2点	20			①	2点	
	問二	7	④	2点		問三	21	④	2点
		8	③	2点			22	②	2点
		9	①	2点			23	⑤	2点
		問三	10	④		7点	問四	24	②
	問四	11	③	6点		問五	25	⑤	6点
	問五	12	②	6点		問六	26	③	6点
	問六	13	⑤	6点		問七	27	⑤	6点
	問七	14	④	7点		問八	28	④	7点